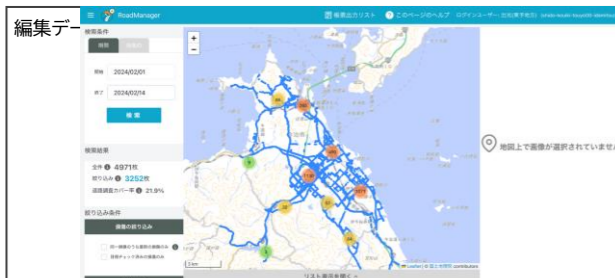


AIを活用したスマホアプリで道路損傷を自動検知 重大事故や管理瑕疵責任のリスクを防止し道路の維持管理業務を効率化

採択事業者名 株式会社アーバンエックステクノロジーズ
 コンソーシアム構成員 新居浜市 | 西条市 | 四国中央市 | 今治市 | 出光興産株式会社 | 四国電力株式会社

勉強会の実施概要	
勉強会の目的	コンソーシアムに参加していない愛媛県下自治体への実装パートナー自治体での課題や検証結果の共有、本プロジェクトで実装したソリューションである道路損傷検知AI「RoadManager」の紹介、実装パートナーにおける運用後の課題解決の共有、無償試験利用への誘導。
勉強会の当初のゴール想定と結果	県下自治体に向けて民間業者を利用した日常巡視点検の結果の共有と複数自治体共同契約スキーム構築のための参加希望自治体の獲得を想定。結果、追加で3自治体のコンソーシアム参加を獲得。
参加者	東温市、新居浜市、西条市、四国中央市、今治市、愛媛県
協議アジェンダ	昨年度からRoadManagerの機能追加した内容 今治市行った民間業者を利用した日常巡視点検の結果の共有 複数自治体共同契約スキーム構築
データに基づく協議ポイントの整理	自治体が自ら日常巡視点検を行った場合のポットホール検出数と道路カバー率と民間事業者（出光興産（株）、四国電力（株））の車両を使用した場合の比較の有効性を示すことで自治体がRoadManagerを導入するための選択肢を増やす。
主なデータ項目	各自治体では管理道路における道路カバー率の調査と重大な事故や管理瑕疵責任のリスクであるポットホールの検知数を検証。民間車両の検証としては、LPガス配送車両による道路走行網羅率とポットホール検知数を取得し、同エリアを走行した公用車とのデータを比較。
協議におけるガイドライン（含む具体例）	民間事業者の車両を活用し、損傷の検知数とカバー率を検証。また、季節性に左右されないかの検証も行い1年のうち最も稼働が少ない夏季ので検証を行うことで通年を通して民間車両によるデータ取得が可能かを検証することができる。 今治市の公用車走行の結果の①出光興産（株）の走行パートナー②四国電力（株）の走行パートナー2社で比較検討を行った。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	実現に向けては、上記の民間車両データ提供に向けた他自治体内での実証実験の必要性と他の民間事業者の車両による走行結果との比較も必要。また、運用面では通常よりも損傷の検知数が多く検知できるようになることから損傷の優先順位づけの機能開発とともに、現場で作業ができるようタブレット端末の対応を行うことが必要。



データ活用・協議の具体例			
重要指標例	民間事業者の車両を活用した場合の損傷の検出数、道路カバー率の検証		
	実装前	実装後	
	データ取得	シルバー人材による目視点検 走行ルートの記録はなし	民間車両を使うことで業務のついでにデータを取得することができるようになり、走行ルートもパソコン上から確認が可能
	データ利用	発見した損傷をエクセルで管理	発見した損傷はダッシュボードから写真で確認し修理予定・経過措置などステータスを変更することで優先順位を管理。
	実行	走行ルートはシルバー人材任せで点検	道路の走行箇所がわかり、主要道路は十分網羅できていることを確認、毎日パソコンの看板検知をひらけばいつでも見つけた損傷であるかが確認できる。
協議	市内の管理道路が網羅できているか把握できないが、確認方法もない	上記データに基づき修理依頼を行い、効率的な修繕によってコスト削減と人員不足に備えた体制整備を実施	

データ活用・協議による成果
公用車3台25日検証でポットホール109箇所、カバー率12.8%に対して、 民間車両2台29日検証でポットホール587箇所、34.8%の検証結果となった。